

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	生活環境	対象学年	3 年	場所	学習室 3・4
テーマ	環境総論「環境問題の“今”と市民の役割」				
講師	関西学院大学総合政策学部名誉教授 久野武				
<p>講義内容</p> <p>戦後日本、とりわけ、高度経済成長の開始から現在までの暮らしと生活の変化が どのような環境問題を生み出し、それにどのような対策を講じてきたかという社会と環境 政策の変遷を追い、昭和環境政策の成果と限界を考えます。</p> <p>そして喫緊の課題として、2011年の東日本大震災と福島第一原発の事故以降 問題になった原発とエネルギー政策、そして地球環境問題としてクローズアップ されてきた温暖化＝気候変動問題を考えることで、現代の環境問題が私たち一人 一人につきつけるものを考えます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>いままでの2年間で、さまざまな環境関連の話題を学んでこられたと思いますが、 それらを包摂する全体像を提示できれば一と願っています。また、みなさんがこれか ら取り組む「グループ学習」のテーマ探しの一助になれば幸いです。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	専門授業	対象学年	3年	場所	学習室3・4
テーマ	「グループ学習の進め方」				
講師	環境省・環境カウンセラー 北尾 進				
<p>講義内容</p> <p>【授業の目的】</p> <p>① 「グループ学習」を進める上で気をつけるべきことを知る。</p> <p>② 「問題意識」を明確にすることの重要性を理解する。</p> <p>③ グループメンバーの意識・知見を交換し、グループ学習の「ゴール」をイメージすることが大切であることを理解する。</p> <p>④ 「ゴール」に近づいていくための必要事項を明らかにすることが重要であることを理解する。</p> <p>⑤ どのような調査・研究の進め方があるのかを理解する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>「再び学んで他のために」「環境」「問題意識」「市民目線」</p> <p>「3T」「フィールドワーク」</p> <p>【授業の内容】</p> <p>① 「テーマ」の絞り込みと深めることの大切さをお話しします。</p> <p>② 「テーマ」における問題意識を明確にすることの重要性をお話しします。</p> <p>③ 調査・研究の進め方をお話しします。</p> <p>④ グループ運営のポイントをお話しします。</p> <p>【授業の進め方】</p> <p>① 今までの具体的な事例を紹介しながら進めていきます。</p> <p>② 「グループ学習」を進める上で受講生の皆さんが心配されていることや不安に思っておられることをお聞きしながら進めていきます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>① 何事も「はじめ」が肝心です。</p> <p>② グループ全員が「さあ やるぞ!」という気持ちを持ってください。</p> <p>③ リーダーは一人ひとりの気持ちを大切にしてください。</p> <p>④ 困ったら一人で悩まずに必ずコーディネーターやサポーターに相談してください。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	生活環境	対象学年	3年	場所	学習室3・4
テーマ	音と暮らし環境 音と暮らしと環境①・②				
講師	武庫川女子大学名誉教授 益子務				
講義内容					
<p>音と音環境 ①（午前）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音と音環境 マリー・シェイファーの「サウンドスケープ論」（1960年代） 2 音の環境 自然音と人工的で倍音のない無機質な音。 3 「音」物理的な性質 音源から直進する 「音」発音源から気体（液体、個体）の振動として「耳」にとどく。 人間の聴覚のメカニズム。 物理的、心理的な考察 1 人間の進化と聴覚の発達。 2 聴覚認知、可聴域 言語、音高弁別、音色の違い。 4 音源定位 5 言語と音 日本語とゲルマン語系 <p>音と環境 ②（午後）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽は「音」の同時的、連続的組み合わせ。 2 日本の音楽 歴史、民族性 明治維新以前と第二次大戦後の音楽文化。 3 農耕民族的文化 ユニゾン。家元制度。 4 農業と2拍子、狩猟民族と3拍子 イントネーション・アクセント。 5 音楽の進化と文化 6 地域的伝播と世代的伝播。 7 音楽と脳内ホルモン、達成感。 8 音楽療法。歴史と現在の音楽療法について。 10 まとめ 					
講師よりメッセージ					
<p>音環境については講義内容が広範囲にわたります。音に対する我々を取り巻く社会的な環境問題でもあり、音と音楽を心理的、生理的に検討すべき問題でもあります。</p> <p>言語や文化までを含めて考えてみてください。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	地域環境	対象学年	3年	場所	学習室 3.4
テーマ	瀬戸内海国立公園の魅力と環境省の取り組み				
講師	環境省神戸自然保護官事務所自然保護官補佐 高橋 明子				
<p>講義内容</p> <p>尾瀬・知床・富士山や北アルプスの山々・小笠原や慶良間諸島の青い海・・・ 日本の大自然と言ってみなさんが思い浮かべる場所は、ほぼ国立公園に指定されています。 一方で身近な山、六甲山も実は国立公園に含まれています。</p> <p>講義では日本の国立公園の制度や特徴を紹介するとともに、魅力ある自然やそこに住む生き物がどのように守られているのか、写真を交えて紹介します。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>国立公園の自然というと、「手つかずのもの」というイメージが強いかもしれませんが。 しかしこれらの多くは、人の手によって維持されているものです。</p> <p>講義を通して国立公園や身近な自然への関心を持ち、個人や地域としてどのように関わっていくのか考えるきっかけになればと思います。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（ 生活環境コース ）

項目	専門授業	対象学年	3年	場所	学習室3・4
テーマ	「レポートの書き方」				
講師	環境省・環境カウンセラー 北尾 進				
<p>講義内容</p> <p>【授業の目的】</p> <p>① レポートづくりに何が必要かを理解する。 ② レポートづくりの手順を理解する。 ③ レポート作成のルール・マナーを知る。</p> <p>【キーワード】</p> <p>「問題意識」「論理性」「流れ」「説明力」「独自性」「実践性」</p> <p>【授業の内容】</p> <p>① 調査・研究があつてのレポートであることをお話しします。 ② フィールドワークや文献調査で得たことを素にグループメンバーで何度も話し合いグループメンバーで考えてきたことをまとめて論理的に記述することの大切さとその方法をお話しします。 ③ グループの皆さんの考えがレポートの読み手に良く伝わることの大切さとその方法をお話しします。 ④ レポートづくりの「準備」から「完成」までの手順をお話しします。 ⑤ 「引用の仕方」などレポート作成で気を付けなければならないことを説明します。</p> <p>【授業の進め方】</p> <p>① 具体的な事例を示しながらお話しします。 ② 受講生の皆さんからの質問を受けながら進めて行きます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>① 「書くこと」はそんなに難しい事ではありません。 まずご自分の言葉で書いてみることです。後で修正すればいいのですから。 ② 「コピペ」は絶対ダメです！自分の頭で考え、心を込めて書いてください。 ③ 書いたものを何度も読み直し、修正を重ねることが大切です。修正していくにつれて次第に上質なレポートになっていきます。 ④ サポーターの意見・アドバイスに耳を傾けてください。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要 (シラバス) (生活環境コース)

項目	神戸の地域産業	対象学年	3 年	場所	学習室3・4
テーマ	神戸の産業全般の話				
講師	元神戸市産業振興局参事 三谷陽造				
<p>講義内容</p> <p>1868年に神戸港が諸外国に向かって開かれました。</p> <p>さまざまな外国の文化が「港」から日本に流入してきた中で、神戸の産業として定着したものが一方、社会経済情勢の変化によりなくなったものもあります。</p> <p>また、港が開かれたことにより、それまでなかった産業が新たに生まれました。このような産業は、現在でも神戸経済を支えているといっても過言ではありません。</p> <p>さらに神戸は前面に豊かな海、後背地には緑豊かな田園地帯を持っていることから、林業を除く第一次産業が盛んな都市です。</p> <p>明治以前から戦争や災害を経て現在に至る神戸の産業の歴史と、地域住民の生活を支える地域産業について知ること、神戸についてあらためて認識していただきたいと思えます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸のこれまでの産業の歴史を踏まえ、現在の社会経済状況の変化に伴う産業の動きを見ながら、今後神戸がどういう方向を目指せばいいのか考えていただきたい。 					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	総合学習	対象学年	3年	場所	学習室3・4
テーマ	命をつなぐフードバンク関西の活動				
講師	NPO 法人フードバンク関西理事 浅葉めぐみ				
<p>講義内容 食品ロスの実態とフードバンク活動</p> <p>皆様、日本では、まだ食べられるのに廃棄されている食品が1年間にどの位の量になるか、ご存知ですか？</p> <p>その一方で、毎日の食べ物に事欠く暮らしをしている人が増え、子どもの貧困が懸念されています。</p> <p>ただの「もったいない」だけでは済まされない食品ロスの問題を、日本そして地球の問題として考えてみたいと思います。</p> <p>また、食品関連企業や個人から、商品として扱えないが食べ物として全く問題のない、あるいは使いきれない食品を集めて、支援を必要とする人達に無償分配する活動、「フードバンク」をご紹介します。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>1人でも多くの方に、余った食べ物を廃棄から救い、命の糧として有効活用するフードバンクの取組みを知っていただきたいと思います。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	専門授業	対象学年	3年	場所	カレッジホール（予定）
テーマ	「効果的な発表にするために」				
講師	環境省・環境カウンセラー 北尾 進				
<p>講義内容</p> <p>【授業の目的】</p> <p>① 「発表」で気をつけるべきことを理解する。</p> <p>② 「発表」をより印象的なものにする方法を理解する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>「絞り込み」「伝える」「見える」「聞こえる」「KISS」「PANIC」「おみやげ」</p> <p>【授業の内容】</p> <p>次のこととお話しします。</p> <p>① 「発表会」とは何か</p> <p>② 「発表する」ということは何か</p> <p>③ 「レポート」と「発表」は別モノ</p> <p>④ 「構成」「流れ」を大切に</p> <p>⑤ 記憶に残る発表と残らない発表</p> <p>⑥ 「見えないスライド」や「聞こえないナレーション」はオーディエンスに「失礼」</p> <p>【授業の進め方】</p> <p>① パワーポイントでお話しします。</p> <p>② 良くないスライドや良いスライドを示します。</p> <p>③ 過去の発表会で良い事例、良くない事例を示しお話しします。</p> <p>④ カレッジホールの後部からも見てチェックしてください。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>① 「発表会」をキチンと全員で準備して行いましょう。</p> <p>② 手抜き工事はしないで丁寧に進めてください。</p> <p>③ チャント準備すればみなさんの思いは必ず伝わります。</p> <p>④ 調査・研究がよくないのに発表だけをよくするということはできません。</p> <p>中身が大切です！</p>					

シルバーカレッジ講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	生活環境	対象学年	3 年	場所	学習室 3・4
テーマ	暮らし環境「アスベスト問題を考える」				
講師	関西学院大学総合政策学部名誉教授 久野武				
<p>講義内容</p> <p>ともすれば環境問題に興味を持ち始めた人は、人工のものは危険で、天然のものは安全だという錯覚に陥りがちです。</p> <p>アスベストは人為的に作りだした化学物質でなく、天然の鉱物です。</p> <p>そのアスベストによる健康影響が問題になっています。</p> <p>古くから「天然の贈り物」「奇跡の鉱物」として重用され、後に「静かな時限爆弾」といわれるようになったアスベストについて、歴史や健康影響、現在の対策と今後の課題とそこから得られる教訓について考えてみます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>受講生のみなさんは理科の実験で、石綿を使ったことを覚えていらっしゃいますか？あの石綿がアスベストで、建材など広い範囲で使われていました。それがなぜ？ということと一緒に考えましょう。</p>					